



女大經解







女大學おんなのまがらひ  
 一夫女子ハ成長ひとしづめして  
 他人の家ハいづれの田舎のうらに  
 了つひつきのちんちんであり  
 子こららしし親おやの教しよ



うせしやうじんぐんぐんぐん  
母が寵ちゆう愛あいしてて想おもひほふ  
やせむしまのいせいよち  
必かならずるまのいせいよち  
まじしやうじんぐんぐんぐん

まじしやうじんぐんぐんぐん  
眼まなこの中なかああくくららて  
政まつりごとのいせいよち  
すまのいせいよち  
まじしやうじんぐんぐんぐん

ちんあひさしのこおまよハ  
撰るら<sup>あま</sup>も<sup>これ</sup>ま<sup>こま</sup>の女子のそら  
へ<sup>あま</sup>な<sup>こま</sup>や<sup>こま</sup>り  
一<sup>あま</sup>女<sup>こま</sup>ハ<sup>こま</sup>実<sup>こま</sup>し<sup>こま</sup>り<sup>こま</sup>も<sup>こま</sup>心<sup>こま</sup>の<sup>こま</sup>ま<sup>こま</sup>さ  
ま<sup>こま</sup>ら<sup>こま</sup>と<sup>こま</sup>ま<sup>こま</sup>と<sup>こま</sup>す<sup>こま</sup>へ<sup>こま</sup>一<sup>こま</sup>心<sup>こま</sup>結<sup>こま</sup>

か<sup>あま</sup>り<sup>こま</sup>女<sup>こま</sup>ハ<sup>こま</sup>心<sup>こま</sup>強<sup>こま</sup>一<sup>こま</sup>く<sup>こま</sup>眼<sup>こま</sup>  
怨<sup>あま</sup>く<sup>こま</sup>え<sup>こま</sup>出<sup>こま</sup>て<sup>こま</sup>人<sup>こま</sup>と<sup>こま</sup>怨<sup>こま</sup>  
し<sup>あま</sup>ま<sup>こま</sup>旬<sup>こま</sup>一<sup>こま</sup>物<sup>こま</sup>い<sup>こま</sup>い<sup>こま</sup>ま<sup>こま</sup>ら<sup>こま</sup>。  
か<sup>あま</sup>く<sup>こま</sup>は<sup>こま</sup>熱<sup>こま</sup>ま<sup>こま</sup>く<sup>こま</sup>人<sup>こま</sup>の<sup>こま</sup>ま<sup>こま</sup>ま<sup>こま</sup>ら<sup>こま</sup>ま<sup>こま</sup>  
人<sup>あま</sup>と<sup>こま</sup>眼<sup>こま</sup>と<sup>こま</sup>熱<sup>こま</sup>ま<sup>こま</sup>く<sup>こま</sup>人<sup>こま</sup>の<sup>こま</sup>ま<sup>こま</sup>ま<sup>こま</sup>ら<sup>こま</sup>ま<sup>こま</sup>



くまぐまに裳をまき  
わすれまじくは  
深まぐめと能く  
まぐめりしは  
まぐめりしは

まぐめりしは  
まぐめりしは  
まぐめりしは  
まぐめりしは  
まぐめりしは  
まぐめりしは  
まぐめりしは



して切親と礼をして  
名と稱し親兄弟を  
辱とあへし身と  
充てしものありくら  
惜れりよあはれや女

と父母乃命や妹姉  
やよれど交らん親  
むし小字ありとみそり  
娘今者を先よも心を  
金石のこころみ守りて

妻とさるべし  
婦人の丈夫の家とわ  
家しけるなま夜土ま  
嫁をゆりやうと我が  
うしとせつりまはるち

飛文乃家新姑やら  
やしとと死べうべ天  
しりわとよあたへのくお  
家の貧乏我仕合の函  
ぬかりやとよしん一さび

嫁しは其家より出づる  
を母のたよすることた  
へ聖人の訓かりた  
るすそ守りたきこと  
一々の恥かりせんぬ人

す七去してぬら  
七あり一子の婿あり  
母はまへに二子あり  
母はまへに一子あり  
子孫相残のあまれ

物と丸婦人の心ごとく  
行儀よくして嫁うら  
ちくづらぐらと回姓  
乃子さあからへて式と  
妻と子あへて書はる子

ちく丸ちよるむじんよ  
ど寝丸ちよるむじんよ  
ど恨ちよるむじんよ  
了齋病ちよるむじんよ  
疾あまじらむじんよ

まじく情<sup>じやう</sup>あぐりのつし  
るに親<sup>おん</sup>おれも中<sup>あち</sup>あぐ  
かう<sup>い</sup>あぐいあぐいあぐ  
まじくまじく—せよとあぐと盛<sup>ぬ</sup>  
む心<sup>こころ</sup>あぐいあぐいあぐいあぐ

皆<sup>みな</sup>聖<sup>せい</sup>人のあぐあぐりす  
一夜<sup>いちや</sup>あぐいあぐいあぐいあぐ  
あぐいあぐいあぐいあぐいあぐ  
あぐいあぐいあぐいあぐいあぐ  
あぐいあぐいあぐいあぐいあぐ  
乃<sup>すなは</sup>道<sup>みち</sup>あぐいあぐいあぐいあぐ

及ぶなり

一女子の家におよぶなり

いづれ父母よるを母とて

ふれりやうせんげし

およびていませむといわ

親らりともなく

と教いませりてむす

し親のふれやう

おとせぬなり

し妹のふれやう

舞まいさうくぐくぐまじ嬢ぢやうの  
この勤つとむと業わざとある  
毎まいくべ美み時ときの命いのちあ  
むはらはらくくががくくぐぐぐぐ  
善よのの男おとこ妹いもうめも同おなく

毛けななよよ促おしすすぐぐ男おとこ妹いもうめ  
りりおおとと傍そばをを離はなりりぬぬ  
怒い眼まなこるるこころろかかららままとと孝うやまつと  
ああしてして憚はげととりりくくははめ  
ままのの後のちののちちををくくもも中なかよ

くやうものし

一婦人の野よらるるま

しはなまんとしらし教ひ

懐く事来べし位しを傳

ぐしんおびて婦人のた

え人は様よまありま

業するふ顔色を云ま

い慾動す一怪り和

あるへし不ありし

あるべし人なきを



わづらひしべも甘子守り  
乃勤多の史の教訓あり  
ど重<sup>そのおほし</sup>信<sup>しん</sup>せくべく人<sup>ひと</sup>類<sup>るい</sup>  
し<sup>し</sup>た<sup>た</sup>の<sup>の</sup>史<sup>し</sup>は<sup>は</sup>同<sup>どう</sup>く<sup>く</sup>を<sup>を</sup>の<sup>の</sup>下<sup>げ</sup>  
か<sup>ち</sup>み<sup>み</sup>た<sup>た</sup>よ<sup>よ</sup>べ<sup>べ</sup>く<sup>く</sup>史<sup>し</sup>同<sup>どう</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>あり

バ<sup>バ</sup>甲<sup>甲</sup>く<sup>く</sup>者<sup>しや</sup>よ<sup>よ</sup>べ<sup>べ</sup>く<sup>く</sup>史<sup>し</sup>同<sup>どう</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>あり  
流<sup>とろ</sup>か<sup>か</sup>る<sup>る</sup>人<sup>ひと</sup>舞<sup>まい</sup>れ<sup>れ</sup>る<sup>る</sup>史<sup>し</sup>同<sup>どう</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>あり  
後<sup>のち</sup>を<sup>を</sup>思<sup>おも</sup>へ<sup>へ</sup>る<sup>る</sup>史<sup>し</sup>同<sup>どう</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>あり  
べ<sup>べ</sup>く<sup>く</sup>史<sup>し</sup>同<sup>どう</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>あり  
な<sup>な</sup>し<sup>し</sup>び<sup>び</sup>か<sup>か</sup>の<sup>の</sup>史<sup>し</sup>同<sup>どう</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>あり

天と人あはれはまのま子道  
いづものそととて文會  
らず

一見公母公のまの兄弟  
りれが毎べしまの親れ

ま情まし情まらるれど業  
おのん入る所く後少乃  
あまの可うくべ勝く  
すれが時の心まも帰  
又理と親しと後まのす





何と云ふべし人の徳と  
すしあはれん心は  
人の徳し物へくばる  
云つては  
同か

しん  
一廿のきんは  
身とくは  
身へ一期の  
はくはく

しんまの月丸のよん  
坂田い織能續つしぎ  
あまへうぐん糸糸とけ  
あご多くたぐぐんあま  
あま教海らとあごの

あましんあまらあま  
あまてうまきらあま  
あまのあまあま  
あまあまあまあま  
あまあまあま

一重 観るべしのこまはは  
し 神佛なげが  
道 行はるべし  
只 人の心とす  
時 心のしんとす

佛はちのまへ  
一人の心と成てはる  
心と保へる心乃  
心とあらはる心  
心となる心の心

て 費と 使へく べん 扱  
飲 食 あり とも 身 の 分 限  
す ち ぎ じ 用 ぐ 素 の  
やう せ

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

女 下 報 する の つ ぬ 死  
男 子 へ 一 歩 解 する 為 我  
近 女 へ 一 歩 男 女 同 じ  
困 ぐ 一 歩 一 歩 何 なる 由  
有 一 歩 一 歩 一 歩 一 歩



又かきとてあはれいへいへいへ  
一身のまはれしをいふ乃  
深き程にみちみち目  
ましつゝぬわらふみす  
身とていれはとの寝を

してゆふあつるはらう  
まはれしとてあはれ人の目  
まはれしとてあつるはらう  
わらふ身とてあはれ  
目ゆべい

一家の御の親のあり  
私わたくしのありの親おやを次つぎ  
すべしと云いふは正ただ月つき所ところ  
くちをくちと先まづ夫とのあり  
父ちち親おやと云いふは親おや乃なり

おとつとせしべしと云いふ乃なり  
存あつするは何なにもも  
べしと云いふは人ひとは然しかる  
すべしと云いふ  
一ひとの親おやのありと云いふ

ぐん 舅 姑の 然とつく  
おへー 我親より一孝  
と大地より一孝なり  
なるべし 嫁しては  
こが 親のまよひをくむ

を 舞 なるべし 婿  
他のおよへり 大形ハ 徒と  
きく 一 孝 同と 孝人  
べし 又 我親つ のよ 徒  
と ぬ 後 して 賢く なる

べくぐ  
一 下 部 部 多 多 多 多  
と 子 万 万 万 万 万 万  
男 と 女 と 女 と 女 と  
女 の 作 作 作 作 作 作

乃 乃 乃 乃 乃 乃  
相 相 相 相 相 相  
身 身 身 身 身 身  
活 活 活 活 活 活  
不 不 不 不 不 不

なす〜ん  
一ハ下ゴ廿ニとつ〜まマ子コ〜らラを  
目メ也ヤ〜云クモ甲カ世セ反ヘみミ死シ  
下ゲ福フハハ〜らラ〜あア〜くクて  
智チ恵エちチ〜くク公コウ好コウ〜しシく

のの〜と福フ〜まマ〜まマ  
のノ男オウ妹イ妹イのノあア〜  
我ガんン〜合アぬヌのノあア〜  
根ネ子コ〜つツ〜〜〜  
おオ〜あア〜あア〜のノあア〜思オモ

へて婦人をも 智恵も  
くして世ごと 後しん  
多し 必し 生れあし  
東まのまふり 死ん  
やれど 恨まらじ

悲愁と 後ろの  
うまへく 下女の  
女 依りて 大い  
男 妹の  
とらふく 金うら

ま〜下ゲ女メ傷ケま〜くクは  
ぐグす〜く〜あアさサ若ワ  
ちチ〜ぶブ子コくク進シ出シすス〜  
りリねネのノまマいイみミ〜んンいイ  
乃ノ中ナカとトとトとトとトとトとトとトとト

あアおオとト礼レイ〜基キちチやヤ  
ちチ〜のノちチ〜あア〜  
又マタ早ハヤたタのノとト使シ〜  
とト身ミふフ合カ〜とト多タ  
それとソレト怒イラ〜心ココロ

ざれハ納セくおぬシ毎ニら  
とお多クしテおぬシのヨら  
勢シチシズクぬシあハまシのシ  
あハふハおハくハしシぬシ  
くハあハまシとハまシに

あハまシのヨら  
あハまシのヨら  
あハまシのヨら  
あハまシのヨら  
あハまシのヨら



花よつと又會へ  
あふまひのあふ  
はあしむぐす  
しあふあふ  
くもあふ

み稼あふ  
一丸婦人のあふ  
のあふあふ  
あふあふ  
と人とあふ

や 智恵 世 法 事 たり  
は 女 の 夜 十 人 七  
は 女 の 男 一 人 七  
は 女 の 男 一 人 七  
は 女 の 男 一 人 七

う か 事 戒 び ぬ  
と へ 一 中 事 智 恵 の  
は 女 の 夜 十 人 七  
は 女 の 男 一 人 七  
は 女 の 男 一 人 七

廿ハ男おろろふらふらおろろぶおろろんおろろん  
怒おろろしく目めのめああぢぢぢぢ  
てしぬぬののままたたぢぢぢぢ  
人のそぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
井あハあぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

のあぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ししぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ととぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ひひハハ人人ととぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

悟<sup>しん</sup>せ<sup>ん</sup>ら<sup>ん</sup>ん<sup>ん</sup>れ<sup>ん</sup>れ<sup>ん</sup>  
公<sup>こう</sup>身<sup>み</sup>の<sup>の</sup>仇<sup>あか</sup>と<sup>と</sup>なる<sup>る</sup>の<sup>の</sup>  
公<sup>こう</sup>孫<sup>まご</sup>一<sup>いっ</sup>子<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>存<sup>ぞん</sup>す<sup>る</sup>を  
し<sup>し</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>ふ<sup>ふ</sup>お<sup>お</sup>ま<sup>ま</sup>さ<sup>さ</sup>く<sup>く</sup>習<sup>しゆ</sup>

を<sup>を</sup>習<sup>しゆ</sup>ふ<sup>ふ</sup>一<sup>いっ</sup>切<sup>けつ</sup>に<sup>に</sup>思<sup>おも</sup>は<sup>は</sup>る<sup>る</sup>  
あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>  
強<sup>かう</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>洗<sup>せん</sup>べ<sup>べ</sup>一<sup>いっ</sup>切<sup>けつ</sup>  
乃<sup>な</sup>は<sup>は</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>な<sup>な</sup>き<sup>き</sup>を<sup>を</sup>な<sup>な</sup>す<sup>す</sup>  
三<sup>さん</sup>日<sup>にち</sup>毎<sup>まい</sup>の<sup>の</sup>下<sup>げ</sup>ふ<sup>ふ</sup>川<sup>がは</sup>

むらさきいへるはしはる  
むらさきいへるはしはる  
むらさきいへるはしはる  
むらさきいへるはしはる  
むらさきいへるはしはる  
むらさきいへるはしはる  
むらさきいへるはしはる  
むらさきいへるはしはる

はりの子はつりのあ  
はりの子はつりのあ  
はりの子はつりのあ  
はりの子はつりのあ  
はりの子はつりのあ  
はりの子はつりのあ  
はりの子はつりのあ  
はりの子はつりのあ

友わしむる宛て人  
子つらむしむるやうふ我  
身とくしと人  
悔まじくもら  
横しむくうく堪へ

ののしむるも堪へ  
かたしむるもあど生  
婦の仲なつら  
さしむるもあど生  
しむるもあど生

かまぐし  
たしほく<sup>いざ</sup> ね<sup>い</sup>か<sup>い</sup>さ  
時<sup>とき</sup>も<sup>も</sup>り<sup>り</sup>く<sup>く</sup> 削<sup>く</sup>へ<sup>へ</sup>し<sup>し</sup>又<sup>また</sup>  
う<sup>う</sup>さ<sup>さ</sup>げ<sup>げ</sup>て<sup>て</sup>お<sup>お</sup>く<sup>く</sup>後<sup>あと</sup>  
わ<sup>わ</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>え<sup>え</sup>し<sup>し</sup>や

よ<sup>よ</sup>今<sup>いま</sup>代<sup>だい</sup>の<sup>の</sup>人<sup>ひと</sup>女<sup>むすめ</sup>子<sup>こ</sup>す  
家<sup>いえ</sup>後<sup>あと</sup>を<sup>を</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>ご<sup>ご</sup>多<sup>た</sup>  
く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>へ<sup>へ</sup>婚<sup>い</sup>姻<sup>ん</sup>ち<sup>ち</sup>し<sup>し</sup>る  
し<sup>し</sup>り<sup>り</sup>も<sup>も</sup>は<sup>は</sup>柔<sup>な</sup>く<sup>く</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>能<sup>えい</sup>お  
し<sup>し</sup>や<sup>や</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>や<sup>や</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>や<sup>や</sup>

のうまかきへー古ふる花はな  
子人こひとうくいやく古ふる花はなとと本ほん  
してむす母ははとと嫁よめととむ  
ははのの心こころううくく十じゅう五ご花はな  
おお出でしてして子こおおととううののゆゆ

ううままかかききへへ古ふる花はな  
子こ人ひとううくく古ふる花はなとと本ほん  
してむす母ははとと嫁よめととむ  
ははのの心こころううくく十じゅう五ご花はな  
おお出でしてして子こおおととううののゆゆ





益軒貝原先生述

女童子性来 百人一を奇仙  
いせおの 北田孝  
全を冊

童子訓 貝原の作  
男女志つけがこ  
全三冊

天保十四年卯十一月吉日

浪速書林 柏原屋清太右の板



